

令和8年度 観察会の開催計画(案)



策定検討部会の主要なご意見(R7.11.25)

観察会のテーマ	<ul style="list-style-type: none"> ・ 観察会で生育環境の保全・復元の重要性を浸透させられると良い。 ・ 現物を見て終わりではなく、例えば昆虫の食草など生きもの同士の結びつきを学べる観察会になれば良い。
プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 雨天や夏の高温に備えて室外と室内用のプログラムを組むと良い。 ・ 軽井沢町内では子どもたちが自ら野外で虫などを捕まえる機会が減っているため、親子対象での開催は良いだろう。
開催場所 (追加の提案)	<div style="background-color: #cccccc; height: 100px;"></div>

観察会のテーマ

観察会を通して、身近な環境に暮らす生き物とその生育・生息環境とのつながりを学び、絶滅危惧種を含めた生き物や自然を大切にする意識を育てる

■対象及び開催場所

主な対象者

小中学生とその保護者

募集人数(各回)

30人程度

開催場所の選定イメージ

- ・住居や滞在場所に比較的近いフィールド
- ・近辺で駐車場やトイレが確保可能
- ・2～3時間程度で観察・体験が可能
- ・ダニやヒルなどの危険性が低い

■観察会のねらい

身近な自然に多様な生きものが生育・生息し、それらが「つながり」をもって暮らしていることを知る

生きものを守るためには「目の前の個体を助ける」だけでなく「生きものが暮らす環境を守る」ことが大切だと理解する

自然に対する好奇心を育み、町内の生きものや自然環境を大切にする意識の拡大を図る

3

プログラム例(屋外)

導入(10分)

テーマの紹介と観察のヒントを紹介。

観察(60分×2チーム)

2チームに分かれて講師とともに採集・観察。60分で観察場所と講師を交代。見つかった生きものの名前や形態だけでなく、行動や生息環境の違いについて問いかけることで、参加者が自ら考えるきっかけをつくる。

「この生きものは何をしています？何を食べている？」「どんな場所で見つけた？」「この植物が生えているこっちと生えていないあっち、何が違う？」等

まとめ(15分)

見つかった生きものと絶滅危惧種のとつながりを説明する。

「こういう環境が少なくなっていて、身近にいたはずの生き物が減っている」「これがいなくなると、この種も生きられない」等

生きものを守るためには、生息地となる環境を大切にすることを伝える。

町の中で動植物が観察できる場所の紹介、観察会の参加や町の活動への紹介など今後の関わり方を提示し、一度きりで終わらせない導線を作る。

4



5



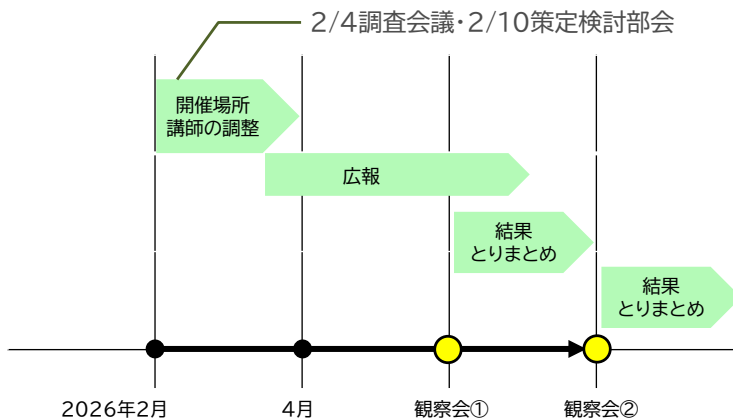
6



7

スケジュール

令和8年度の春～秋にかけて、2回の親子向け観察会を開催



※広報について、町の広報誌(全体版・別荘向け)、町のWEBサイト、SNS、ポスター・チラシで募集を呼び掛ける予定。

8